

5.6. 動詞の活用

前節では、活用要素である時制辞、前語尾辞、語尾の形態について述べたが、この節では、それらの組み合わせによって表わされる活用形について、それぞれの構造と用法を考察する。

<表 3 : マテング語動詞の単純活用形>

	○辞がない形		○辞がある形	
テンスにもアスペクトにも対立があるムード				
直説法				
①完了過去	S 辞 - a -	語基 - iti	S 辞 - v ²¹ -	○辞 - 語基 - iti
②単純過去	S 辞 - a -	語基 - adʒe	S 辞 - v -	○辞 - 語基 - adʒe
③当日過去	S 辞 -	語基 - ádʒe	S 辞 -	○辞 - 語基 - ádʒe
④完了現在	S 辞 -	語基 - ití	S 辞 -	○辞 - 語基 - ití
⑤単純現在	S 辞 -	語基 - a	S 辞 -	○辞 - 語基 - a
⑥単純未来	S 辞 - í -	語基 - adʒe	S 辞 - á -	○辞 - 語基 - adʒe
⑦確認未来	S 辞 - í -	語基 - a	S 辞 - á -	○辞 - 語基 - a
⑧移動未来	S 辞 - aká -	語基 - adʒe	S 辞 - vkú -	○辞 - 語基 - adʒe
⑨確認移動	S 辞 - aká -	語基 - a	S 辞 - vkú -	○辞 - 語基 - a
テンスの対立があるムード				
接続法				
⑩現在接続	S 辞 -	語基 - i	S 辞 -	○辞 - 語基 - í
⑪未来接続	S 辞 - í -	語基 - í	S 辞 - á -	○辞 - 語基 - í
⑫移動接続	S 辞 - aka -	語基 - í	S 辞 - vkú -	○辞 - 語基 - í
希求法				
⑬現在希求	S 辞 -	語基 - adʒe	S 辞 -	○辞 - 語基 - adʒé
⑭未来希求	S 辞 - i -	語基 - adʒé	- - -	
⑮移動希求	S 辞 - aka -	語基 - adʒé	- - -	
テンスもアスペクトも対立がないムード				
⑯否定接続	S 辞 - í -	語基 - á	S 辞 - i -	○辞 - 語基 - á
⑰禁止	S 辞 - ikí -	語基 - a	- - -	
⑱仮想	S 辞 - áka -	語基 - iti	S 辞 - vkú -	○辞 - 語基 - iti
⑲同時	S 辞 - aka -	語基 - adʒé	S 辞 - vkú -	○辞 - 語基 - adʒé
⑳不定形	kú -	語基 - a	kú -	○辞 - 語基 - a

²¹ v は○辞の母音と同じ母音、を表わす。

マテング語の活用形は単純活用形と複合活用形に分けられる。単純活用形とは、ひとつの動詞で活用を表わすもので、これが活用形の基本である。それに対して複合活用形とは、2つの動詞、あるいは動詞補助詞と動詞で活用を表わすものである。これは単純活用形の応用形とも言える。マテング語の単純活用形は表3に示した20とおりが確認されている²²。⑮と⑯は複文にのみ用いられる活用形で、それ以外は単文、複文どちらにも用いられる。以下各活用形の用法について考察していくが、⑮と⑯については、6.3.「複文」で扱うことにする。

5.6.1. 直説法

直説法にはテンスにもアスペクトにも対立が見られる。直説法に用いられる語尾は、完了語尾、非完了語尾、基本語尾の3種類であるが、これら語尾別に直説法の各活用形の用法について述べる。

5.6.1.1. 完了語尾が付く活用形

5.6.1.1.1. 完了過去

時制辞：過去形 -a-, 語尾：完了語尾 - iti

完了した過去の行為を表わす。英語の「過去完了形」の場合とは異なり、基点は過去ではなく、あくまでも「現在」を基点とした「過去」である。「過去」とみなされるのは、基本的には発話の前日以前であるが、例1, 2からわかるように、前日以前であれば「現在」からの時間的距離に制限はない。ただし、例3に示した動詞 -pí-「出かける」は、すでに帰ってきている場合には、発話当日であっても完了過去形が用いられる。

1) twabómbiti kibêga mwei go gupéfiite 「我々は先月土鍋を作った」

tu - a - bóm - iti kibéga mwei go gu - pét - íí

S1pl-過 T - 「作る」 - 完 F 「土鍋」 「月(3)」 R(3) S(3)-「過ぎる」 - 完了 F

²² それぞれの活用形につけた名前は便宜的なものであるが、その活用形の用法がより反映された呼び方をするために、米田(1999)で「単純未来1」、「単純未来2」、「移動未来1」、「移動未来2」、「否定接続1」、「否定接続2」と呼んでいた活用形を、本論文では、それぞれ、「単純未来」、「確認未来」、「移動未来」、「確認移動未来」、「否定接続」、「禁止」と呼ぶ。また同じく「命令法」と呼んでいたものを本論文では「希求法」とする。従って、「現在命令」、「未来命令」、「移動命令」と呼んでいたものは、「現在希求」、「未来希求」、「移動希求」と呼ぶ。

- 2) *liso ŋkɔŋgu gwahábwiki páhe* 「昨日木が倒れた」
lisú ŋkɔŋgu gu - a - hábuk - iti pahí
 「昨日」 「木(3)」 S (3)- 過 T-「落ちる」- 完 F 「下」
- 3) *d3wapíti kumbéŋga lélénu lukéla* 「今朝ンピングに行ってきた」
d3u - a - pí - iti kumbéŋga lélénu lukéla
 S3sg - 過 T - 「出かける」- 完 F 「ンピングへ(17)」 「今日」 「朝」
- 4) *d3wilíhed3wíle* 「彼はけがをした」
d3u - a - li - héd3ul - iti
 S3sg - 過 T - Ref- 「傷つける」- 完 F

◆ 否定形

否定の場合には、否定語 *ŋgapa/ŋgase* が動詞に先行する。*ŋgapa*と*ŋgase*の間には区別はない。

- 5) *ŋgapa nahémi ŋômbé* 「私は牛を買わなかった」
ŋgapa n - a - hémel - i(ti) ŋómbi
 Neg S1sg - 過 T - 「買う」- 完 F 「牛 (9/10)」
- 6) *ŋkɔŋgu ŋgase gwahábwiki pahí liso* 「昨日木は倒れなかった」
ŋkɔŋgu ŋgase gu - a - hábuk - iti pahí lisú
 「木(3)」 Neg S (3)- 過 T - 「落ちる」- 完 F 「下」 「昨日」

5.6.1.1.2. 完了現在

時制辞：なし，語尾：完了語尾 - *ití*

過去の行為や変化の結果としての現在の状態，あるいはある行為がすでに完了したことを表わす。ただし，後者の場合でも，焦点は「行為の完了」自体ではなく，行為が完了しているという「状態」にある。

- 7) *tubómbití kibéga* 「我々は土鍋を(すでに)作った」
tu - bómb - ití kibéga
 S1pl - 「作る」- 完 F 「土鍋(7)」

8) ŋkɔŋgu guhábwiki páhi 「木が倒れている」

ŋkɔŋgu gu - hábuk - ití pahí
「木(3)」 S(3) - 「落ちる」 - 完F 「下」

9) mápiti dzwídzendá kwa 「彼がどこへ行くか知っている」

n - máŋ - ití dzu - í - dzénd - a(dʒɛ) kwa(kó)
S1sg - 「知る」 - 完F S3sg - 未T - 「行く」 - 非完F 「どこ」

完了現在形が用いられた場合、-bómb-「作る」、-sóm-「読む」のような「行動」を表わす動詞であれば、その行為がすでに完了したという「行為の完了」を表わす。これに対して、-hábuk-「落ちる」、-hjóbalet-「慣れる」のような「状態」を表わす動詞であれば、落ちた結果「落ちている」、慣れた結果「慣れている」など、「結果としての現在の状態」を表わす。いずれの場合にも「現在の状況」を表わしているのだが、前者の動詞の場合には、動詞の表わす行為が現在は完了しているという状態を表わしているのであるから、言い換えれば、完了するまではその行為が続いていたということである。これに対して後者の場合には、ある働きかけによって、その状態が始まったということになる。

完了現在形は、「～したことがある」という経験を表わす場合にも用いられる。

10) uhambɔ gwí kidzápani dzugudʒógwíne

「彼は日本語の歌を聴いたことがある。」

uhambɔ gwá kidzápani dzu - gu - dzógwan - ití
「歌(14)」 属(14) 「日本語(7)」 S3sg - O(14) - 「聴く」 - 完F

11) twê tupití kudʒelumâni

「我々はドイツに行ったことがある」

twê tu - pí - ití kudʒelumâni
「我々」 S1pl - 「出かける」 - 完F 「ドイツへ(17)」

ただし、例 12 のように -hík-「来る」という動詞の場合には、経験の表現に完了現在形を用いることができない。この動詞に完了現在形を用いることができるのは、「すでにそこに到着して、今そこにいる」という状態を表わす場合のみである。完了現在形は「過去に完了した行為の結果としての現状」を表わしているのであるから、その後彼が別の場所

へ去ってしまい、「そこに来て、その結果まだそこにいる」という状態ではなくなってしまえば、完了現在形では表わせない。また、たとえ現在彼がそこにいる場合であっても、続けてそこに滞在していたのでなければ、現在の「彼がそこにいる」という状況は前回の訪問の「結果」ではない。そのような場合、前回の訪問はあくまでも「過去の行為」としてしか捉えられないのである²³。従って、例 12 のように完了過去形で表わされる。

12) paní panámaguu dzwahíkíti hōte 「彼は一度ここマギーに来たことがある」

paní panámaguu dzu - a - hík - iti hoté

「ここ」 「マギーへ (16)」 S3sg- 過 T- 「来る」 - 完 F 「一度」

◆ 否定形

否定の場合には、否定語 ngapa/ ngase が動詞に先行する。

13) ngapa ndzómítí kitábu 「まだ本を読み終わっていない」

ngapa n - sóm - ití kitábu

Neg S1sg - 「読む」 - 完 F 「本」

14) ngase mániti dwídzendá lí 「彼がいつ出発するか知らない」

ngase n - mán - ití dzu - í - dzénd - a(dze) lí(le)

Neg S1sg - 「知る」 - 完 F S3sg - 未 T- 「行く」 - 非完 F 「いつ」

5.6.1.2. 非完了語尾が付く活用形

5.6.1.2.1. 単純過去²⁴

時制辞：過去形 -a-, 語尾：非完了語尾 -adze

発話時の前日以前に行なわれた行為を表わす。過去進行形の意味で用いられることもある。焦点は行為自体が終わっているということではなく、「何を」、「いつ」、「どこで」

²³ 例 10, 11 も「日本の歌を以前に聴いた」、「前にドイツに行った」という「過去の行為」として捉えれば完了過去形を用いることもできる。

²⁴ ここで言う「単純過去形」の「単純」とは、「完了」、「移動」、「確認」などに対立させた用語で、これらの意味機能を含まない、あるいはそれに関してはニュートラルである、という意味で用いる。「単純現在形」、「単純未来形」の場合も同様である。従って、ひとつの動詞からなる活用形、つまり「複合活用形」と対立させて用いた「単純活用形」という場合の「単純」とは区別する。

などの WH 要素にある。従って、目的語や補語、副詞句などの後続語がない場合は用いられにくい。例 15 では、彼が殺したのが「友人であること」あるいは「ナイフを用いたこと」に焦点がある。例 15' のように完了過去形でも同じ自体を表わすことができるが、その場合には、彼が友人を「殺してしまった」という「完了した行為」に焦点がある。

15) áḡkoma ḡkósi mundu nu ḡpámba 「彼は友人をナイフで殺した」

á - a - mu - kóm - a(dʒe) ḡkósi mundu na ḡpámba
S3sg - 過 T - O3sg - 「殺す」 - 非完 F 「友人(1)」 「彼の(1)」 随伴 「ナイフ(3)」

cf. 15') áḡkomíti ḡkósi mundu 「彼は友人を殺した」

á - a - mu - kóm - iti ḡkósi mundu
S3sg - 過 T - O3sg - 「殺す」 - 完 F 「友人(1)」 「彼の(1)」

16) lúhagí le dʒwagolúladʒe 「彼が洗ったボウル」

lúhagí le dʒu - a - gólol - adʒe
「ボウル(11)」 R(11) S3sg - 過 T - 「洗う」 - 非完 F

17) gwasoma kitábu koní gulóḡgela na dʒwómbe

「君は彼と話しながら本を読んでいた」

gu - a - sóm - a(dʒe) kitábu
S2sg - 過 T - 「読む」 - 非完 F 「本(7)」
koni gu - lóḡgel - a na dʒwómbe
「～の間」 S3sg - 「話す」 - 基 F 随伴 「彼」

18) gwíhemaalá lile ? 「それ(7)をいつ買ったの？」

gu - a - ki - hémel - a(dʒe) lile
S2sg - 過 T - O(7) - 「買う」 - 非完 F 「いつ」

◆ 否定形

否定は、完了過去の否定形で表わされる。また、補文や補語から時制が判断できる場合には、例 20 のように不定形を用いて表わされることも多い。

19) ngapa twabómbiti kibêga 「我々は土鍋を作らなかった」

ngapa tu - a - bóm - iti kibéga

Neg S1pl - 過 T - 「作る」 - 完 F 「土鍋(7)」

20) pa dwahika pãne né nga kúsoma kitábu

「彼がここへ来たとき、私は本を読んでなかった」

pa du - a - hík - a(d3ε) paní né nga kúsoma kitábu

「~の時」 S3sg - 過 T - 「着く」 - 非完 F 「ここ」 「私」 Neg 不定形「読む」 「本(7)」

5.6.1.2.2. 当日過去

時制辞：なし，語尾：非完了語尾 -á(d3ε)

発話当日に行なわれた行為や起こった事態を表わす。進行形の意味で用いられることもある。焦点はWH要素である。

21) guhemala kitábu

「君は（今日）本を買っていた」

gu - hémel - á(d3ε) kitábu

S2sg - 「買う」 - 非完 F 「本(7)」

22) hēngita líhengu lukéla

「朝私は仕事をした / 仕事をしていた」

n - hēng - it - á(d3ε) líhengu lukéla

S1sg - 「働く」 - PreF - 非完 F 「仕事(5)」 「朝」

例 22 のように「朝仕事をして、今はしていない」という実質的に完了した行為を表わす場合でも、「すでに仕事を終えて今は自由である」といった現在の状態に焦点があるわけではなく「仕事をする」という行為自体に焦点があれば、完了形ではなく当日過去形で表わされる。

-pí-「出かける」のように移動を伴う動詞の場合、元の場所へ戻ることで一連の行為が「完了」することになるため、当日のことであっても、この活用形が使えないことがある。-pí-「出かける」という動詞に当日過去形が用いられるのは、「出かけて未だ帰ってきていない」という場合である。すでに帰ってきている場合には、当日のことであってもそこに「完了」の意味があるため、完了過去が用いられる。-hík-「到着する」という動詞の場合には、当日到着したのであれば当日過去、前日以前に到着したのであれば単純過去が用いられる。例文 28 のように-hík-の完了過去が用いられた場合には、今回の訪問につ

いてではなく、以前の訪問について述べられている。これは「来る」という行為が「帰る」という行為を実行することによって完了され、前回の訪問が「完了した過去の行為」となっているためである。

23) dzupitá kumbênga lélênu lukéla (当日過去)

「彼は今朝ンビンガに出かけた (未だ帰ってきていない)」

dzu - pí - it - á(dʒe) kumbénga lélênu lukéla

S3sg - 「出かける」 - PreF - 非完 F 「ンビンガに(17)」 「今日」 「朝」

24) dzwapítí kumbênga lélênu lukéla (完了過去)

「今朝ンビンガに行ってきた (すでに帰ってきている)」

dzu - a - pí - iti kumbénga lélênu lukéla

S3sg - 過 T - 「出かける」 - 完 F 「ンビンガに(17)」 「今日」 「朝」

cf. 24) dzupítí kumbénga 「彼はンビンガに行ったことがある」 (完了現在)

dzu - pí - ití kumbénga

S3sg - 「出かける」 - 完 F 「ンビンガに(17)」

25) panámaguu pání gwahiká lí ? 「君はここマギーにいつ着いたの？」

panámaguu pání gu - a - hík - a(dʒe) lí(le) (単純過去)

「マギーへ(16)」 「ここ(16)」 S2sg - 過 T - 「来る」 - 非完 F 「いつ」

26) nahika mwéhí gōla 「先月着きました」

n - a - hík - a(dʒe) mwéhí gōla (単純過去)

S1sg - 過 T - 「来る」 - 非完 F 「月(3)」 「あの(3)」

27) tuhikitá hénu hénu 「我々はたった今着いた」

tu - hík - it - á(dʒe) hénu hénu (当日過去)

S1pl - 「来る」 - PreF - 非完 F 「たった今」

28) nahíkítí mwéhí gōla 「先月来ました (1回帰っている)」

n - a - hík - iti mwéhí gōla (完了過去)

S1sg - 過 T - 「来る」 - 完 F 「月(3)」 「あの(3)」

29) dzuhíkíte

「彼はもう到着しているよ」

dzu - hík - íí

(完了現在)

S3sg - 「着く」 - 完了 F

当日過去形は、「かつては～をしたものだ」という過去の習慣を表わす場合にも用いられる。

30) písoba úhambu ahinitá ngamáha

「人々はかつてンハンボをよく踊ったものだ」

písoba úhambu a - hín - it - á(dʒɛ) ngamáha

「かつて」 「ンハンボ(3)」 S3pl - 「踊る」 - PreF - 非完 F 「非常に」

31) dzutamita kutêmbó

「彼はかつてリテンボに住んでいた」

dzu - tám - it - á(dʒɛ) kutêmbó

S3sg - 「住む」 - PreF - 非完 F 「リテンボで(17)」

32) dzukupitá ugwêmbé

「彼はかつて地酒を飲んだものだ」

dzu - kúp - it - á(dʒɛ) ugwémbi / 「彼は今日地酒を飲んだ」

S3sg - 「飲む」 - PreF - 非完 F 「地酒(14)」

◆ 否定形

否定は完了現在で表わされる。過去の習慣の場合は完了過去の否定形で表わされる。

33) ngapa ahíníí ngánda

「人々はンガンダを踊っていない」

ngapa a - hín - íí ngánda

Neg S3pl - 「踊る」 - 完 F 「ンガンダ(3)」

34) ngase dzwatámíí kutêmbó

「彼はリテンボに住んでいなかった」

ngase dzu - a - tám - íí kutêmbó

Neg S3pl - 過 T - 「住む」 - 完 F 「リテンボに(17)」

5.6.1.2.3. 単純未来

肯定・時制辞：未来形 -í-, 語尾：非完了語尾 -adʒe

否定・時制辞：未来形 -i-, 語尾：基本語尾 -a

時間的に発話時より後のことを述べる場合に用いられる。現在からの時間的距離に制限はない。例 37 のように、わからないことに対してあえてこの活用形を用いることで、励ましや確信を表わすこともある。この活用形は「誰が」, 「何を」, 「いつ」, 「どこで」などのWH要素を表わす後続語, あるいは従属節を常に必要とする。

35) twíhemala ηômbe mwaka gôngi 「我々は来年牛を買う」

tu - í - hémel - a(dʒe) ηómbi mwáka góngi
S1pl - 未 T - 「買う」 - 非完 F 「牛(9/10)」 「年(3)」 「別の(3)」

36) dzíkuna íhjula kilábo 「明日は雨がふるだろう」

dzi - í - kún - a(dʒe) íhjula kilábu
S(9) - 未 T - 「降る」 - 非完 F 「雨(9)」 「明日」

37) gwímaja sámateŋgo 「君は(きっと)マテング語がわかるようになるよ」

gu - í - máŋ - a(dʒe) sámateŋgó
S2sg - 未 T - 「知る」 - 非完 F 「マテング語(7)」

◆ 否定形

否定形の場合には、否定語 nga が動詞に先行し、動詞の語尾は基本語尾になる。さらに時制辞の H がひとつ右にずれる²⁵。例 40 のように不定形を用いて表わすこともある。

38) nga dzíkúna íhjula kilábo 「明日は雨はふらないだろう」

nga dzu - í - kún - a íhjula kilábu
Neg S(9) - 未 T - 「降る」 - 基 F 「雨(9)」 「明日」

²⁵ 米田 (1999:135) で「直説法の否定形では、動詞に nga が先行する。ただし動詞自体は構造も声調も対応する肯定形と同じ」とあるが、これはまちがいである。未来形の否定形は、動詞に否定語が先行するだけでなく、声調と語尾の変化がある。

39) nga nihéme ηômbe 「私は牛を買わない」
 nga n - í - héme(l - a) ηómbi
 Neg S1sg- 未 T - 「買う」・基 F 「牛(9/10)」

40) né nga kúheme ηômbe 「私は牛を買わない」
 né nga kúheme(l- a) ηómbi
 「私」 Neg 不定形「買う」 「牛(9/10)」

5.6.1.2.4. 移動未来

時制辞：移動形 -aká-, 語尾：非完了語尾 - adʒe

発話されている場所から離れて実行される行為について述べる場合に用いられる。この活用形も単純未来の場合と同様に、常に、WH要素を表わす後続語、あるいは従属節を必要とする。

41) twakáhika hénu hénu 「(移動の最中に) もうすぐ着くぞ」
 tu - aká - hík - a(dʒe) hénu hénu
 S1pl- 移 T - 「着く」・非完 F 「今すぐ」

42) nakálomba máhombi kúsoko 「市場卵を買ってくるよ」
 n - aká - lómb - a(dʒe) máhombí kúsoko
 S1sg - 移 T - 「買う」・非完 F 「卵(6)」 「市場で(17)」

この活用形は、動詞が表わしている行為が発話がなされている位置とは別の場所で実現されなければならない。従って「到着する」という動詞にこの活用形が用いられる場合には、<主語>が向かっているのは発話者のいる所とは別の場所ということになる。一方、この動詞が単純未来形で用いられる場合には、<主語>が向かっているのは発話者のいる所ということになる。

移動未来形は異なる場所で行為が実現されることを表わしているが、「移動」に重点が置かれているわけではない。「行って～する」というよりは、「～してくる」²⁶、「～を

²⁶ ただし、日本語の「～してくる」の場合には、移動を伴わない事態を表わす用法もある。益岡 (1997: 183-188) は日本語の「～してくる」の用法について、A:空間的接近「転がってくる」、B:継続・状態変化「増えてくる」、C:消滅・出現「生じてくる」、D:行為の受領「相手チームはエースを立ててくる」、E:空間的接近を伴う行為「買ってくる」、F:異なる時空間での行為や出来事「楽しんでくる」、と分けている。ここでマテング語の-aká-と比較しているのは、Eの用法についてだけである。

しに行ってくる」という日本語訳のほうが近い。

時間的には発話以後、つまり「未来」であるが、「これからすぐにでも」というニュアンスがあり、近未来に限られる。しかしながら、具体的にいつまでを近未来とするか、ということがはっきり決まっているわけではなく、行為の内容が大きいことや難しいことであれば、kilâbu「明日」や mwehi gôngi「来月」などの語を続けることも可能である。つまり、行為の内容を考え合わせた上で、それが行なわれようとしている「未来」が心理的に「かなり近い」と感じられるものであれば、この活用形を用いることは可能である。この点からも日本語の「～してくる」に近いと思われる。

43) ? 来年あたりお皿洗ってくるよ。

44) 来年あたりひともうけしてくるよ。

◆ 否定形

移動未来の否定形はなく、単純未来の否定形が用いられる。移動するか否かをたずねられて移動することを否定する場合には例 46 のように「ここ」という場所を示す。

45) nga nilómba máhombi kúsoko 「市場で卵を買わない」

nga n - í - lómb - a máhombí kúsoko

Neg S1sg - 未 T - 「買う」 - 基 F 「卵(6)」 「市場で(17)」

46) aá, pãne 「いいえ、(それを行なうのは)ここです」

「いいえ」「ここ」

5.6.1.3. 基本語尾が付く活用形

5.6.1.3.1. 単純現在

時制辞：なし、語尾：基本語尾 - a

習慣や普遍的なことの他、現在進行中のことや最近継続的に行なっていることなどを表わす場合に用いられる。

47) ndzoma kitábu másobá goha 「私は毎日本を読んでいる」

n - sóm - a kitábu másobá goha

S1sg - 「読む」 - 基 F 「本(7)」 「日(6)」 「すべて(6)」

- 48) míhu ga púsi ganaṅana ikílu 「夜, 猫の目は光る」
 míhu ga púsi ga - náṅan - a ikílu
 「目(6) 属(6) 「猫(9)」 S(6) - 「光る」 - 基F 「夜」
- 49) gulele kí? 「なぜ (何のために) 泣いているの?」
 gu - lél - e(l - a) kí
 S2sg - 「泣く」 - AP - 基F 「何(7)」
- 50) noka mádzundzu 「私は (いつも/この頃) 髪を編む」
 n - lók - a mádzundzu
 S1sg - 「編む」 - 基F 「髪の毛(6)」
- 51) gupala máhombí galê 「君は卵がいくつ要りますか?」
 gu - pál - a máhombí galengá
 S2sg - 「要る」 - 基F 「卵(6)」 「いくつ(6)」

◆ 否定形

否定語 ngapá が動詞の前にくる。不定形を用いて表わすこともある。

- 52) ngapá tusoma kitábu 「我々は本を読みません」
 ngapá tu - sóm - a kitábu
 Neg S1pl - 「読む」 - 基F 「本(7)」
- 53) ljoba ngapá libala ikílu 「太陽は夜は照らない」
 ljoba ngapá li - bál - a ikílu
 「太陽(5)」 Neg S(5) - 「照る」 - 基F 「夜」
- 54) né nga kúpala máhombi 「卵はいりません」
 né nga kúpala máhombí
 「私」 Neg 不定形 「要る」 「卵(6)」

◆ 「単純現在」と「完了現在」との比較

次に示すような状態を表わす動詞は、基本的に単純現在形で用いることができない。

- 55) -máŋ- 「知る」
 56) -hjóbael- 「慣れる」
 57) -kádʒuk- 「割れる」
 58) -ŋólek- 「深い」
 59) -dʒípatil- 「短くなる, 短い」

このような動詞で単純現在形を作れるのは例 60 のように「その状態になることが可能である」という表現ができる動詞や, 例 61 のように, その「状態」になることを繰り返すことができる動詞の場合である。

- 60) -págakik- 「固定している」
 a) dʒipagakika mēsa 「机は固定することが可能である」 (単純現在)
 b) dʒipágakike mēsa 「机は固定されている」 (完了現在)

- 61) -lóbél- 「酔う」
 a) dʒulobe másoba goha 「彼は毎日酔う (習慣)」 (単純現在)
 b) dʒulóbile 「彼は酔っている」 (完了現在)

「働きかけや変化の結果」ではなく「属性」を示す場合であれば, 単純現在形も完了現在形も「現在」を表わすために用いられるが, 使われる場面に違いがある。それぞれ(a)が単純現在, (b)が完了現在の例である。

- 62) -nóg- 「甘い」
 a) dʒinoga dʒwisi 「(甘みを口に感じている最中に) ジュースは甘い」
 b) dʒwisi dʒinógite 「(ジュースに対する評価として) ジュースは甘い」

- 63) -báb- 「苦い」
 a) dʒibaba mítěla 「(口に苦みを感じながら) この薬は苦い」
 b) dʒibábiti mítěla 「(苦いことを知っていて) この薬は苦い」

- 64) -tóp- 「重い」
 a) litopa ilibu lénde 「(石を持っているときに) この石は重い」
 b) ilibu lénde litópile 「(目の前にある石が重いかとたずねられて) この石は重い」

単純現在形が用いられるのは、その「属性」を体感している最中である。一方、完了現在形が用いられるのは、そのことを以前に体感したか、あるいは知識としてか、その「属性」を知っている場合である。ただし、例 62 や 63 の場合も、「砂糖を加えたから甘い」あるいは「苦くなかったのに今は苦い」など、働きかけや変化を伴う場合には完了現在形で表現される。

5.6.1.3.2. 確認未来

肯定・時制辞：未来形 -í-, 語尾：基本語尾 -a

否定・時制辞：未来形 -i-, 語尾：基本語尾 -a

時制的には単純未来形と同じであるが、この活用形は質問に対する回答の場合に用いられる。ただしWH疑問に対する回答ではなく、その行為が本当に実行されるかどうか、という質問に対する確認的回答の場合である。WH疑問に対する回答では単純未来形が用いられる。単純未来形が後続語なしでは現われないのに対して、確認未来形は常に後続語なしで現われる。

65) mwíhemala ηómbí ? 「君達は牛を買うの？」 (単純未来)

mu - í - hémel - a(dʒe) ηómbi

S2pl - 未 T - 「買う」 - 非完 F 「牛 9/10」

twíhemela 「買います」 (確認未来)

tu - í - hémel - a

S1pl - 未 T - 「買う」 - 基 F

cf. 65) dʒwígolula kíke ? 「彼は何を洗うの？」 (単純未来)

dʒu - í - gólol - a(dʒe) kíke

S3sg - 未 T - 「洗う」 - 非完 F 「何(?)」

dʒwígolula lúhági 「彼はボウルを洗う」 (単純未来)

dʒu - í - gólol - a(dʒe) lúhági

S3sg - 未 T - 「洗う」 - 非完 F 「ボウル(11)」

◆ 否定形

否定になると単純未来形との差がなくなる。不定形が用いられることもある。

66) nga nigólola 「私は洗いません」

nga n - í - gólol - a

Neg S1sg - 未 T - 「洗う」 - 基 F

66') né nga kúgolola

「私」 Neg 不定形「洗う」

5.6.1.3.3. 確認移動

時制辞：移動形 -aká-, 語尾：基本語尾 -a

移動未来と同じく移動を伴う行為を表わすが、その行為が実行されるかどうかの質問に対する確認的回答の場合にのみ用いられる。移動未来が後続語なしでは現われないのに対して、確認移動は常に後続語なしで現われる。

67) gwakáhemala ṅómbi ? 「君は牛を買ってくるの？」 (移動未来)

gu - aká - hémel - a(dʒe) ṅómbi

S2sg - 移 T - 「買う」 - 非完 F 「牛 (9/10)」

nakáhemela 「買ってきます」 (確認移動)

n - aká - hémel - a

S1sg - 移 T - 「買う」 - 基 F

cf. 67) gwakáhemala kíkè ? 「何を買ってくるの？」 (移動未来)

gu - aká - hémel - a(dʒe) kíkè

S2sg - 移 T - 「買う」 - 非完 F 「何(?)」

nakáhemela máhómbi 「卵を買ってきます」 (移動未来)

n - aká - hémel - a(dʒe) máhómbi

S1sg - 移 T - 「買う」 - 非完 F 「卵(6)」

◆ 否定形

確認移動の否定形はない。従って否定形になると、単純未来、移動未来、確認未来、確認移動に違いがなくなる。例 68 は例 67 の否定形である。

68) = 41) *nga nihéme ηômbe* 「私は牛を買いせん」

nga n - í - héme(l - a) ηgóm̄bi

Neg S1sg- 未 T- 「買う」- 基 F 「牛(9/10)」

= *né nga kúheme ηômbe*

「私」 Neg 不定形「買う」 「牛(9/10)」

5.6.2. 接続法

接続法は、事実として起こったことではなく、依頼、願望、助言、目的などを表わす。テンスの対立があり、「現在」と「未来」が時制辞によって区別される。テンスの対立ではないが、「移動を伴う場合」も時制辞によって区別される。

5.6.2.1. 現在接続

時制辞：なし，語尾：接続語尾 *-i*（文末では *-e*）

現状に対する肯定の依頼や助言を表わす場合に用いられる。また肯定目的を表わす従属節にも用いられる。

69) *tudʒóbe* 「我々は隠れたほうがいい」

tu - dʒób - i

S1pl- 「隠れる」- 接 F

70) *gusómi kitábu* 「本を読みなさい/ 読んだほうがいいよ」

gu - sóm - i kitábu

S2sg- 「読む」- 接 F 「本(7)」

71) *híkiti kumbênga nilibóli sámaténgó*

「私はマテング語を学ぶためにンピングに来た」

híkiti kumbênga n - li - bóli - i sámaténgó

「私はンピングに来た（完了現在）」 S1sg- Ref- 「教える」- 接 F 「マテング語(7)」

5.6.2.2. 未来接続

時制辞：未来形 -í-, 語尾：接続語尾 -i (文末では -ε)

未来のことに関する依頼, 助言, 勧誘, 願望を表わす。

72) kilábo gwídzénde 「明日行ってください / 行ったほうがいいよ」

kilábo gu - í - dzénde - i

「明日」 S2sg - 未 T - 「行く」 - 接 F

73) gwimápi sámátěngó 「君がマテング語がわかるようになるよう願っている」

gu - í - máp - i sámátěngó

S2sg - 未 T - 「知る」 - 接 F 「マテング語(7)」

5.6.2.3. 移動接続

時制辞：移動形 -aká-, 語尾：接続語尾 -i (文末では -ε)

移動を伴う依頼や助言, 勧誘に用いられる。この活用形は、「かけ声」のような間投詞的な用いられかたをすることが多く、長い説明的な文として現われることはない。

74) gwakagóloli lúhági 「ボウルを洗ってきてください」

gu - aká - gólol - i lúhági

S2sg - 移 T - 「洗う」 - 接 F 「ボウル(11)」

75) twakalómbe 「買いに行こう」

tu - aká - lómb - i

S2sg - 移 T - 「買う」 - 接 F

5.6.3. 希求法

希求法は、肯定の依頼, 提案, 勧誘, 提案, 願望, 目的などを表わすのに用いられる。語尾は希求語尾 -adzéが用いられる。マテング語には「命令法」と呼べるものはなく、命令する場合にはこの希求法が用いられる。依頼や勧誘, 提案の場合には、希求法のほうが接続法よりもやや強い語調になるが、それ以外は接続法と同じように用いられる。特に、願望や目的などの場合には接続法との差はない。接続法と同様に、時制辞によって「現在」, 「移動」, 「未来」が区別される。

5.6.3.1. 現在希求

時制辞：なし，語尾：希求語尾 -ad3é

現状に対する依頼や命令，助言，強制や勧誘に用いられる。例 79 のように従属節に用いられる場合には肯定目的を表わす。例 80 のように名詞節としても機能する。

76) gugólúla kibêga 「土鍋を洗いなさい/ 洗ってください」

gu - gólol - a(d3é) kibêga

S2sg - 「洗う」 - 希 F 「土鍋(7)」

77) tupómúljad3e 「休憩しよう」

tu - pómol - ad3é

S1pl - 「休む」 - 希 F

78) gukiŋgaljäd3e 「それ(7)を見張っていなさい」

gu - ki - ŋgalil - ad3é

S2sg - O(7) - 「見張る」 - 希 F

79) hēŋga líhēngu mbátâ lupíd3a 「私はお金を得るために働いている」

hēŋga líhēngu n - pát - a(d3é) lupíd3a

「私は仕事をする (単純現在)」 S1sg - 「得る」 - 希 F 「お金(11)」

80) mbala gud3émbad3e 「君に歌ってほしい」

mbala gu - d3émb - ad3é

「私は望む (単純現在)」 S2sg - 「歌う」 - 希 F

5.6.3.2. 未来希求

時制辞：未来形 -í-, 語尾：希求語尾 -ad3é

発話時よりも後に実行される行為を命じる場合に用いられる。ただしO辞を取ることができない。O辞をとる必要がある場合には，未来接続形を用いる。

81) mwid3éŋgalja íŋoma 「君達は後から太鼓踊りに来いよ」

mu - í - d3éŋgalé - a(d3é) íŋoma

S2pl - 未 T - 「後から続く」 - 希 F 「太鼓踊り(9)」

- 82) kilábu gwídzéndádze 「明日行ったほうがいい/行きなさい」
 kilábu gu - í - dzénd - adzé
 「明日」 S2sg - 未 T - 「行く」 - 希 F

5.6.3.3. 移動希求

時制辞：移動形 -aká-, 語尾：希求語尾 -adzé

「～してこい」という移動を伴う行為の依頼や勧誘をする場合に用いられる。この活用形も〇辞をとることはできない。〇辞を入れる必要がある場合には移動接続形を用いる。

- 83) gwakagólula lúhăgi 「ボウルを洗って来てください」
 gu- aká - gólol - a(dzé) lúhăgi
 S2sg - 移 T - 「洗う」 - 希 F 「ボウル(11)」

- 84) twakahínădze 「踊りに行こう」
 tu- aká - hín - adzé
 S2pl - 移 T - 「踊る」 - 希 F

時制辞 -aká- 自体には場所を移動することが含まれているが、「行って～してこい」のように「行け」という命令をさらに重ねて、移動を強調することがある。この場合、「行って」の部分の命令には現在希求形が用いられる。

- 85) gudzénda gwakalóngila náku 「行って、彼と話をしなさい」
 gu - dzénd - a(dzé) gu - aká - lóngil - a(dzé) náku
 S2sg - 「行く」 - 希 F S2sg - 移 T - 「話す」 - 希 F 「彼と」

直説法では、-aká- を用いる活用形を「移動を伴う近未来」として考えてきた。しかしながら例 85 を見ると、-aká- が用いられる場合に必ずしも「未来」が意識されていないことがわかる。確かに「明日」、「来月」といった未来を表わす補語と共起すること、否定形では単純未来と同じ形をとるなど、「未来」時制として考えられる点もある。移動未来形の文から移動の意味を取り除いた文をインフォーマントに作ってもらおうと以下のようになる。

- 86) nukúgulendá kusúle 「学校で君を待っているよ」 (移動未来)
 87) nagulénda pambâne 「ここで君をまっているよ」 (単純未来)

しかしながら、移動接続と移動希求から「移動」の意味を取り除いた例文を作ってもらくと、未来接続や未来希求ではなく、現在接続、現在希求になる。

88) gwakagólulädze	「洗ってきなさい」	(移動希求)
89) gugólúla pambâne	「ここで洗いなさい」	(現在希求)

つまり、-aká- を伴う活用形は、以下のように捉えられているということになる。

移動未来	= 「移動」 + 単純未来
移動接続	= 「移動」 + 現在接続
移動希求	= 「移動」 + 現在希求

この時間的な「ずれ」は、-aká- に2とおりの意味や機能があるためではなく、直説法と、接続法や希求法との間にある「実行される時間のずれ」によるものであると考えられる。直説法のように、叙述内容を事実として述べる場合、発話時より後に実行されることであれば、それは「未来」である。移動未来は「今すぐ」という場合に用いられると先に述べたが、マテング語話者には、この「近未来」は「未来」として認識されている。しかしながら、命令や依頼の場合には、それが「今～しろ」という「現在」に対するものであっても、発話されたときには未だそれは実行されていないし、発話者も発話の後にそれを行なうことを想定していると思われる。つまり直説法で「未来」として認識した「近未来」は、命令や依頼では「現在」の領域に入るのである。

以上のことから、直説法、接続法、希求法で用いられている -aká- をひとつのものであることを明らかにするためには、-aká- の示す時間領域を「未来」ではなく「未開始」とするほうが適当であると思われる。

5.6.4. テンス・アスペクトの対立がない活用形

これまでに述べてきた直説法、接続法、希求法はテンス・アスペクト両方、あるいは一方に対立があったが、以下に述べる活用形は、テンス・アスペクトいずれの対立もない。

5.6.4.1. 否定接続

時制辞：否定形 -i-, 語尾：否定接続語尾 -á

否定の助言や命令を表わす。また従属節に用いられるときは否定目的を表わす。

90) gwigone páhi hēnu 「今寝てはいけない」

gu - i - góne(l - á) páhi hēnu

S2sg - 否 T - 「寝る」 - 否 F 「下」 「今」

91) dzwahia síndu séla né nikipáta

「彼は私に見つからないようにそれを隠した」

dzwahia síndu séla

「彼は隠した (単純過去)」 「物(7)」 「それ(7)」

né n - i - ki - páta - á

「私」 S1sg - 否 T - O(7) - 「見つける」 - 否 F

5.6.4.2. 禁止

時制辞：禁止形 -ikí-, 語尾：基本形 -a

厳しい禁止を表わす。この時制辞はO辞と共起できない。

92) gwíkihika kábete pāne 「ここへ二度と来るな」

gu - ikí - hík - a kábete páni

S2sg - 禁 T - 「着く」 - 基 F 「再び」 「ここ」

5.6.4.3. 不定形

不定形は、名詞クラス接頭辞をとることからもわかるように、動詞が名詞化したもので、15クラスに属する。しかしながら、主語辞、時制辞、前語尾辞以外のすべての動詞構成要素を取り込むことができる。目的語をとることもできる。

93) kúhenga 「働くこと」 kú - hēng - a

Np(15)- Rad - 基 F

94) kúhwata íngobu 「服を着ること」 kú - hwát - a íngobu

Np(15)- Rad - 基 F 「服(9)」

95) kúgulapula 「君を殴ること」 kú - gu - lápul - a

Np(15)- O2sg - Rad - 基 F

96) kúbagana 「分け合うこと」 kú - bág - an - a
Np(15)- Rad - RE - 基F

97) kútulombela 「我々のために買うこと」 kú - tu - lómb - el - a
Np(15)- Oipl- Rad - AP - 基F

主語を動詞の中に取り込むことはできない。そこで、行為者は、属辞や所有形容詞を用いて「誰々が～すること」というように表現される。

98) gu- dzend - a kumbênga → kúdzenda kwáko kumbênga
S2sg- 「来る」 - F 「ンピングへ(17)」 不定形「来る」 「君の(15)」 「ンピングへ(17)」
「君がンピングに来る」 「ンピングへの君の来訪」

不定形は名詞的性格と動詞的性格を併せ持っている。例 99, 100 のように動詞の主語や目的語になりえるのは名詞的性格である。

99) kúsoma kitábu kunjámbiti 「本を読むことはよいことである」
kú-soma kitábu ku - njámb - ití
不定形「読む」 「本(7)」 S(15)- 「良い」 - 完F

100) dzuhjɔbalí kúlja úgwale 「彼女はウガリを食べることに慣れた」
dzu - hjɔbal - i(tí) kúlja úgwali
S3sg - 「慣れる」 - 完F 不定形「食べる」 「練り粥(14)」

一方、動詞的性格の強い用法もある。いくつかの活用形の否定形でもすでに例をあげているが、否定文の場合、不定形を動詞の活用形のかわりに用いることができる。例 101, 102 は、それぞれ完了現在形、仮想形の否定形で言い換えることができる。

101) né nga kúmapa 「私は知らない」
「私」 Neg 不定形「知る」
= ngapa májite

102) aná nga kúkuna íhjula níhina kihóla

「もし」 Neg 不定形「降る」 「雨(9)」「私は踊る」 「キホラ(7)」

= aná ngapa dzikúñiti íhjula níhina kihóla

「もし雨が降らなければキホラ²⁷を踊るよ」

例 103 のように主語と時制辞が同じ 2 つの動詞文を連続させる場合、2 つめの動詞には不定形を用いることができる。また例 104 のように物語を語る場合には、主語名詞を先行させて用いられる。

103) twateliki nu kúkulja

「我々は料理をして、食べた」

「我々は料理した」 等位 不定形「食べる」

= twateliki nu twakúfite

104) mwánalwía kúpwaga “nga síndu” 「カメレオン君は言いました『いいよ』」

「カメレオン氏(I)」²⁸ 不定形「言う」 Neg 「物(7)」

= mwánalwía apwâgiti “nga síndu”

5.6.4.4. 複文で用いられる活用形

以下は複文にしか用いられない活用形である。これらの詳しい用法については、次章の 6.3. 「複文」で述べる。

- 仮想形

時制辞：仮想形 -áka-, 語尾：完了過去語尾 -iti

- 同時形

時制辞：同時形 -aka-, 語尾：希求語尾 -adzé

5.6.5. 複合活用形

複合活用形とは、複数の単純活用形、あるいは動詞補助詞と単純活用形が組み合わさってできている活用形である。

²⁷ 雨期が終わった頃（6～8月）に女性によって踊られる太鼓踊り。

²⁸ カメレオンはlwíha (9-10 クラス) である。この場合の「カメレオン」は物語の中で擬人化されているので1クラスになっている。

5.6.5.1. be 動詞 + 一般動詞

be 動詞 (6.2.1.参照) と完了現在形の一般動詞が組み合わさって、基点となる時点で動作や行為がすでに完了していることを表わす。be 動詞に完了過去形が用いられる場合には、過去のある時点ですでにそれが完了していた、という「過去完了」を表わす。be 動詞に単純過去形が用いられる場合には、過去のある時点でその完了した状態が続いていたことを表わす。be 動詞が単純未来形の場合には、未来のある時点ではそれが完了している、という「未来完了」を表わす。

完了過去+完了現在形

105) d3wabí d3ud3ómwi kúsenḡa 「彼はその時家を建て終えていた」
 d3u - a - bé - i(ti) d3u - d3ómɔl - i(tí) kúsenḡa
 S3sg - 過 T - be - 完 F S3sg - 「終える」 - 完 F 不定形「建てる」

単純過去+完了現在形

106) pa d3wahikâ twê twabá tugônile 「彼が来たとき、我々はすでに寝ていた」
 pa d3u - a - hík - a(d3e)
 「時」 S3sg - 過 T - 「着く」 - 非完 F
 twê tu - a - bé - a(d3e) tu - gónel - i(tí)
 「我々」 S1pl - 過 T - be - 非完 F S1pl - 「寝る」 - 完 F

単純未来+完了現在形

107) d3wíba d3ud3ómwi kúsenḡa mwaka gónḡi
 「来年には家が建ち終わっているだろう」
 d3u - í - bé - a(d3e) d3u - d3ómɔl - i(tí) kúsenḡa mwaka gónḡi
 S3sg - 未 T - Be - 非完 F S3sg - 「終える」 - 完 F 不定形「建てる」 「年(3)」 「別の(3)」

5.6.5.2. 一般動詞+一般動詞

複数の一般動詞が現われるということは、基本的には複文として考えられるが、ここで複合活用形として扱うのは、一方の動詞(前に位置する動詞)が助動詞的な機能をして、その組み合わせによってテンス・アスペクト・ムードを表現するものである。また、一方の動詞が不定形で現われる場合は、それが前に位置する動詞の目的語の役割をしている場合もあり、厳密には複合活用形とは言えない。「動詞+不定形」の組み合わせについては、

テンス・アスペクト・ムードに係わるものに限りここで扱うことにする。

5.6.5.2.1. -ka + 現在希求

「～しかけた」, 「～するところだ」といった, 実際にはその行為や現象には至らなかった, あるいはまだ至っていない, という状態を表わす。-kaは完了過去で現われる。ただし, 1人称単数形のS辞をとる場合に限り, 完了現在形で現われることもある。後ろに位置する現在希求形の語尾は, 後続語がなくても最終音節 /dʒɛ/を省略できる。

完了過去+現在希求

108) gwakítí gutupôta twênga 「君は我々にぶつかりそうになった」
 gu - a - kV - iti gu - tu - pót - a(dʒɛ) twénga
 S2sg - 過 T - Rad - 完 F S2sg - O1pl - 「あたる」 - 希 F 「我々」

完了過去+現在希求

109) nakítí hābúka 「私はこけそうになった」
 n - a - kV - iti n - hābuk - a(dʒɛ)
 S1sg - 過 T - Rad - 完 F S1sg - 「落ちる」 - 希 F

完了現在+現在希求

110) ngítí ndómâ kitábu 「(今から) 本を読むところだ」
 n - kV - ití n - sóm - a(dʒɛ) kitábu
 S1sg - Rad - 完 F S1sg - 「読む」 - 希 F 「本(?)」

語尾の接辞のしかたを見ると, ここで用いられている動詞の基本形は -kaであると考えられるが, 語根の k の後ろに続く母音は不明である (例文グロスでは V で表わした)。この動詞は, この複合活用形以外で現われることはなく, この動詞の「基本的意味」やその他の性質は明らかでない。

5.6.5.2.2. -palik- + 現在希求

「～しなければならない」という義務を表わす。-palik-は, -pal-「要る」に自動詞形派生辞 -ik-が付加された動詞である。-palik-には単純現在形か不定形が用いられる。単純現在形が用いられる場合には, 後続の動詞に現在希求形の代わりに不定形を用いることもできる。現在希求形が用いられる場合, 後続語がない場合でも最終音節/dʒɛ/を省略できる。

111) gupalika gudzénda 「君は行かなければならない」

gu- pálik - a gu - dzénd- a(dzé)
 S2sg - 「しなければならぬ」 - 基 F S2sg - 「行く」 - 希 F

= 111') gupalika kúdzenda

= 111'') kupalika gudzénda

5.6.5.2.3. -tend- +不定形

継続した行為を表わす。進行形としても用いられる。単純現在形や単純過去形との間に意味の差が明確に出ない場合もあるが、基本的には、単純形が WH 要素に焦点を置いているのに対して、この活用形は「何をするか」という、動作自体に焦点がある。

112) dzimbwá dza dzitenda kúlweta 「私の犬が吠えている」

dzimbwa dzá(ngu) dzi - ténd - a kúlweta
 「犬(9)」 「私の(9)」 S(9) - Rad - 基 F 不定形「吠える」

113) natenda kúlwala 「私は苦しかった / 病気だった」

n - a - ténd - a kúlwala
 S1sg - 過 T - 語根 - 基 F 不定形「苦しむ」

単純現在形をつくれない動詞は、この活用形の場合も -tend- が単純現在形ではなく完了現在形になる。

114) losí lutei kúpoleka 「川が深い」

losí lu - ténd - i(tí) kúpoleka
 「川(11)」 S(11) - 「する」 - 完 F 不定形「深い」

cf) 114') losí lupólike 「川は深い」

losí lu- pólék - íí
 「川(11)」 S(11) - 「深い」 - 完 F

例 114 は -tend- +不定形を完了形にした複合活用形、例 114' は単純活用形の完了現在形

である。これらの違いは、前者が「川がどんな状態か」ということを問題にしているのに対して、後者は「川が深いか否か」ということを問題にしている。

5.6.5.2.4. -takj- + 不定形

「～しそうになる」「～しそうだった」という、実現には至らなかった行為や現象を表わす。意味的には5.6.5.2.1.「-ka + 現在希求形」に似ているが、この複合活用形では、-takj-に単純過去、当日過去、単純現在の活用形が用いられる。

単純過去 + 不定形

115) ŋkɔŋgu gwatakja kúhabuka liso	「昨日木が倒れそうだった」
ŋkɔŋgu gu - a - tákj-a(dʒɛ)	kú - hábuk - a lisú
「木(3)」 S(3) - 過 T - 語根 - 非完 F	Np(15) - 「落ちる」 - 基 F 「昨日」

当日過去 + 不定形

116) tutakja kúhabuka	「(今日)我々はこけそうになった」
tu - takj-á(dʒɛ) kúhabuka	
S1pl - 語根 - 非完 F	不定形「落ちる」

単純現在 + 不定形

117) ŋkɔŋgu gutaki kúhabuka	「木が倒れそうになっている」
ŋkɔŋgu gu - tákj - (a) kúhabuka	
「木(3)」 S(3) - 語根 - 基 F	不定形「落ちる」

5.6.5.3. 「動詞補助詞」を使った複合活用形

ここで「動詞補助詞」と呼ぶものは以下の条件を満たすものである。

- ①文法呼応しないで常に同じ形で現われるもの
- ②常に動詞の直前に位置し、続く動詞のテンス・アスペクト・ムードに作用するもの、あるいは一定の意味を付加するもの

5.6.5.3.1. mwití + 現在希求

「～することになっている、～しようとしている」といった、実行しかけている行為、あるいは実現を確信している「近未来」を表わす。

118) mwalímu adzɔ mwití dzutupúndisa twénga

「あの先生は我々を教えることになっている」

mwalímu adzɔ mwití dzu -tu - púndis - a(dzɛ) twénga

「先生(1)」 「あの(1)」 Aux S1pl- O1pl- 「教える」 - 希F 「我々」

119) nũmba mwití tudzɛngadze 「我々は家を建てることにしている」

nũmba mwití tu - dzɛng - adzɛ

「家(9)」 Aux S1pl- 「建てる」 - 希F

5.6.5.3.2. mbáka + 現在接続

「～にちがいない、必ず～する」など、そのことが間違いなく実現されると確信していることを表わす場合に用いられる。時制的には「近未来」のことに対する確信であるが、「移動」の場合と同様に、どこまでを「近未来」として扱うかは、はっきり決まっていない。1人称の主語の場合には、確信と同時に「～しなければならない」という義務や決心の意味が込められていることが多い。

120) íhjula mbáka dzikũne kilábu, 「明日はきっと雨が降るだろう」

íhjula mbáka dji - kún - i kilábu

「雨(9)」 Aux S(9)- 「降る」 - 接F 「明日」

121) anánga kúkuna íhjula, mbáka n̄ende 「たとえ雨が降っても私は絶対行く」

anánga kúkuna íhjula, mbáka n - dzéng - i

「たとえ」 不定形「降る」 「雨(9)」 Aux S1sg - 「行く」 - 接F

5.6.5.3.3. mbaŋga + 同時形, mbaŋga + 否定接続

mbaŋgaに同時形(5.6.4.4., 6.3.参照)を続けると、「～したほうがいい」という助言を表わす。接続法や希求法で表わされる助言よりも語調は穏やかである。また否定接続を続けると「～しないほうがいい」という否定内容の助言になる。否定接続形だけの場合に比べて、やはりこれも語調が穏やかになる。

122) mbaŋga gwakagɔnela páhe 「寝たほうがいいよ」

mbaŋga gu - aka - gɔnel- adzɛ pahí

Aux S2sg - 同T - 「寝る」 - 希F 「下」

123) mbánga gwiboka kúndza

「外に出ないほうがいいよ」

mbánga gu - i - bók - á kundzá

Aux S2sg-否 T-「出る」- 否 F 「外(17)」